

日本の お父さん とう — 石井十次 いし いじゅうじ —

「あたたかい おにぎりを どうぞ。」

十次は、おにぎりを さしだしました。男の子と 女の子 ははおや 母親の 三人の
たびの 親子が、おなかを すかせて もう あるけなくなつて いたのです。

そのころ 十次は、ふるさとから とおく はなれた 大宮村 みや の
しんりようじよで、いしやを 目ざして はたらいて いましたが、日々の
生活 かつは くるしく、いしやには なれないかも しれない という ふあんで
いっぱいでした。

しかし、十次は、こまっている 親子を 目のまえに すると、なにか
しないでは いられませんでした。おにぎりを おいしそうに たべる 親子を
見ると、十次は、なんだか ほっとするのです。





そのときです。

母親^{ははおや}が、とつぜん はなしはじめました。

「わたしたちには、かえる いえが ありません。

この子たちの 父親^{ちちおや}も、たびの 途中^{とちゅう}に 病^び気^{ょうき}で

しんでしまいました。なんとか ここまで きたのですが、

この先 二人^{ふたり}の 子どもをつれて たびを つづけて

いけそうに ありません。どうか 定^{さだ}一^{いち}だけでも

しばらく あずかって いただけないでしょうか。」

母親の ほほには、大つぶの なみだが こぼれおちて いました。

十^{じゅう}次^じには、生きていくために 子どもを あずけなければ いけない

母親の つらい 気もちが いたいほど わかりました。十次は、

ことわりきれず、定一を あずかることに しました。

しかし つぎの日、十次は、こうかいしました。一人^{ひとり}ぼっちに なった 定一は、

なきつづけて います。定一にとって 母親と はなればなれに なることは、

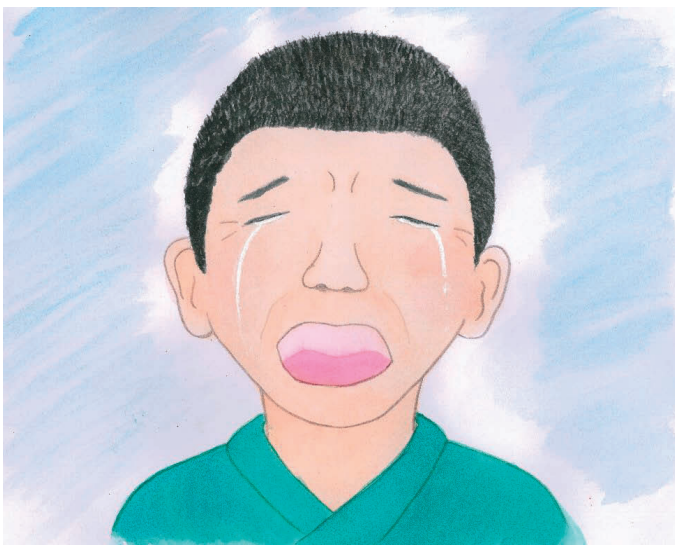
こんなにも つらいこと だったのです。

ここで あずかることが、この子に とって しあわせだったのだろうか。
じぶんが 定一さだいちぐらいの としには、父親ちちおやや 母親ははおやと いっしょに たのしく
くらしていたはずだ。なのに、定一は……。そうだ。じぶんが、この子の 父親に
なろう。

十次は、それから 父親のような 気もちで、定一と すごしました。
野山のを あるいたり、はたけで やさいを そだてたり しました。

ある日 いけに つりに つれていったときの
ことでした。はじめは なにも つれず、いつもの
かなしい かおの 定一でしたが、しばらくすると
定一の さおの 先が うごき、みごと 大きな
さかなを つりあげました。二人ふたりは、大ごえで
よろこびあい、定一の かおは、えがおで
あふれて いました。

その日の かえり道みちの 夕日は、うつくしく
まぶしいくらい かがやいて いました。





十次^{じゅうじ}の やさしい おもいが つたわったので
しよう。定一^{さだいち}のかおに いっしか えがおが
見られるようになりました。定一の えがおを
見ていると、十次も、また、しあわせな 気もちに
なり、こころの 中に カが わいてくるようでした。
「定一のように さびしい おもいを している
子どもたちが、日本には まだ、たくさん いる。
そんな 子どもたちの ために、じぶんが
できることを していきたい。」

十次は、そのご、いしやに なることを やめ、せんそうや さいがいで
おやが いない 子どもたちを たくさん あずかるようになり、
「日本の お父さん^{とうさん}」と よばれるようになりました。いまでも 十次の
子どもたちへの おもいは、いろいろな 人に うけつがれて います。

1 主題名 温かい心で親切に

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、B 親切、思いやり「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」である。よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすることはとても大切である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

中・高学年では、相手の気持ちを察し深く理解したり、相手の立場を考え自分がどうすることが相手のためになるのかを考えたりすることが求められる。そのためには、低学年で幼い人や高齢者、友達などの身近な人に広く目を向け、温かい心で接し親切にすることの大切さについて考えを深めることが大切である。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、発達の特性から自己中心的な考え方をすることが多い。一方で、家族だけでなく家の周りや学校の人々、友達など周囲との関わりが次第に増えてくる。このような様々な人々の関わりを通して、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになって考えられる。

そこで、身近な人々との関わりを通して、相手のことを考え優しく接したり、相手の喜びを自分の喜びとして実感したりできるようにし、親切にすることの大切さについてしっかり考えさせたい。

(3) 教材について

この教材は、児童福祉の父と呼ばれ、日本で初めて孤児院を開いた石井十次が初めて孤児を引き取ることになった時の話である。医者を目指している 22 歳の十次は、旅の途中の貧しい母子に出会う。母親の必死の願いを受け、定一という男の子を引き取ることにしたが、母親と離ればなれになった定一は毎日泣くばかりである。十次は、定一をどうにかして笑顔にしてやろうと自分が父親になったつもりでかわいがる。いつしか、定一の顔に笑顔が見られるようになり、そんな定一の笑顔を見て、十次も今までにない充実感を感じ、その充実感が十次のそれからの人生を変えていくことになるという内容である。

母親がいながら離ればなれに暮らし、その子を預かるということは今の時代あまり見られないことである。しかし、家族と離れて暮らすという辛さは共感できると考えられる。さびしい思いをしている定一を笑顔にしようと頑張った十次が、ついに定一の笑顔を見たときの気持ちを考えさせ、親切にすることの大切さについて考えさせたい。そして、相手のことを考え温かい気持ちで身近な人に接しようとする気持ちを育てたい。

◇板書例

<p>○しんせつにできたときのこと</p> <p>◇しんせつにするとあい手も よろこんでくれるし、じぶんも うれしくてげん気が出てくる。</p>	 <p>定一のえがおを見て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ えがおになつてよかった。 ・ 気もちがつたわってよかった。 ・ じぶんもしあわせな気もちになるな。 ・ いろんな人をえがおにしたい。 	 <p>なきつづける定一とくらしながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かわいそうなことをした。 ・ 定一はつらいよな。 ・ えがおになつてほしい。 ・ どうしたらいいのかな。 	 <p>おねがいをする母親を見て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だいじようぶかな。 ・ ことわれないな。 ・ じぶんがあずかるほうがいい。 <p>日本のお父さん 〜石井十次〜 めあて 人にしんせつにすることの大せつさ についてかんがえよう。</p>
--	--	--	--

◇参考

石井十次（1865～1914 年）宮崎県で生まれる。1887 年に邑久郡大宮村で診療所の代診に赴いた後、孤児を預かるようになり、同年に門田村（現岡山市中区門田屋敷）の三友寺に孤児教育会（後の岡山孤児院）を設立。日本にまだ社会福祉という概念がない時代に延べ三千人にも上る孤児を救い、社会福祉を実践した。参考文献「石井十次物語」（大宮を考える会）。「まんが石井十次物語」（岡山「石井十次顕彰会」設立準備会）。

3 ねらい

人に親切にすることの大切さについて考える中で、相手のことを考え、温かい心で接すると相手も喜ぶし、自分もうれしくなって元気が出てくることに気づき、身近な人に進んで親切にしようとする態度を養う。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 親切にすることについて話し合い、めあてをつかむ。	○ 人に親切にしてもらったことがありますか。そのとき、どんな気持ちがありましたか。 ・○○にしてもらったとき、うれしかった。	・親切にしてもらったときの気持ちを思い出すとともに、石井十次がさびしい思いをした子どもたちのために力を尽くし、「日本のお父さん」と言われるようになったきっかけを話題にし、めあてを示す。
人にしんせつにすることの大せつさについてかんがえよう。		
2 「日本の お父さん -石井十次-」を読んで話し合う。	○ 涙を流しながらお願いする母親を見て、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・自分も貧乏なのだけど、大丈夫かなあ。 ・涙を流しての願いだから、ことわれないな。 ・暮らしのことを考えると、母親にとっても、定一にとっても自分が預かることはいいことだ。 ○ 母親と別れて泣き続けている定一と暮らしながら、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・定一は、貧乏でも母親と一緒に暮らせるほうがよかったのだ。かわいそうなことをしてしまったな。 ・母親と離れて暮らすのはとても辛いことだな。 ・自分が定一を幸せにしてやらなければ。 ・定一が辛い思いをせず笑顔になってほしいけど、自分は何ができるだろう。 ◎ 定一の笑顔を見て、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・笑顔になってよかった。ほっとした。 ・定一のことを本当に考えている自分の思いがうまく伝わってよかったな。 ・定一が笑顔になったのを見ると、自分も幸せな気持ちになり、なんか元気が出てきたようだ。 ・これからは、定一だけでなくいろんな人を笑顔にしていきたいな。	・当時の貧しい暮らしの様子について補足説明をし、母親が子どもを育てることが難しかったことを確認した上で、母親の涙がらの願いを聞いて、預かろうと決心した十次の気持ちに共感させる。 ・預かったことの後悔や焦り、かわいそうな定一を思いやる気持ち、自分が何とかしなければと責任を感じている気持ちなど、十次の気持ちを多面的に捉えさせる。 ・定一の辛い気持ちを思いやり、自分が幸せにしたいという十次の気持ちに気付いたところで、「十次になって、定一が笑顔になるように声をかけてみましょう。」と、役割演技を取り入れ、定一を笑顔にした時の十次の喜びがより分かるようにする。 ・心の中にどんな力がわいたかを話し合い、定一の笑顔は十次の相手を思う気持ちが元になったことに気付かせ、親切な行動が十次の喜びにつながったことを感じられるようにし親切にすることの意義につなぐ。
人にしんせつにするとあい手もよろこんでくれるし、じぶんもうれしくてげん気が出てくる。しんせつにすることは大せつだな。		
3 親切にできたことについて、今までの自分を振り返る。	○ 今まで親切にできたときのことについて考えてみましょう。 ・親切にできたときは、相手もうれしそうだった。 ・けがをして痛そうだったから、一緒に保健室について行ったことがある。ありがとうって言ってもらってうれしかったよ。	・相手に親切にすることができたかどうかという経験を振り返らせる際、してもらった側の気持ちも尋ね、相手がどう感じたかを実際に聞くことで、親切な行動をしてよかったなという思いを実感させ、自分の喜びにつながるようにする。
4 先生の話聞く。	○ 先生の話聞きましょう。 わたしは人にしんせつにすると、じぶんもうれしい気持ちになるので、しんせつにすることは大せつだと思う。	・親切にしたことで、相手も喜んでくれたし、自分も元気が出た体験を教師が話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
評価の観点	・親切にすると相手も喜ぶし、自分もうれしい気持ちになり、元気が出てくることに気付くことができたか。 ・身近にいる人たちに進んで親切にしていきたいという意欲を高めることができたか。	

5 他教科等との関連

日常生活の中での「親切見付け」をし、互いの気持ちをカード等に記録することで、自分がしたことだけでなく、相手のうれしい気持ちも実感できるようにする。